

平成30年度  
八戸学院大学 看護学科  
推薦入学試験（公募推薦）

小論文

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開かない。
- 2 筆記用具は黒色の鉛筆またはシャープペンシルを使用する。
- 3 問題冊子に印刷不鮮明、ページの落丁などがあるときは、手を挙げて監督者に伝える。
- 4 問題冊子の余白等は適宜利用してよい。

下記の課題文を読み感想を交え 600～800 字で書きなさい。

「健康な人には、自分たちにとって辛抱強く“我慢”すべきちょっとした不便なことが、病人にとっては実際に死を早めるまでには至らなくても回復を遅らせる苦しみの根源となることを忘れてしまうという奇妙な癖がある。健康な人は同じ部屋に長くても8時間以上続けていることはめったにない。たとえ2,3分であっても気分転換ができる。たとえそこに8時間いるとしても、彼らはその間に自分の姿勢を変えとか、部屋のなかで居場所を変えることができる。しかし、自分のベッドから離れることのない病人は、自分自身の動きで自分のまわりの空気や光、温かさを変えることはできないし、自分で静寂を得ることもできなければ、煙や臭い、あるいはほこりから逃れることもできない。あなたにとっては取るに足らないようなことによって、病人は本当に悪くなったり元気を無くしてしまったりする」

フローレンス・ナイチンゲール、『看護覚え書き』—本当の看護とそうでない看護—。児玉香津子ほか訳。日本

看護協会出版会 2011年